



## 私にとっての日本

グエン・ホン

私はカナダと香港で六年間研究と仕事をして日本に帰ってきた。「日本に帰った」といったのは他の外国人研究者と異なり、私が一九九七年に來日し、そのあと二〇〇四年カナダで経済学博士号を取るために留学し、香港ですこしの間働き、そしてこの六月、アジア経済研究所の研究員となったことに由来している。七年以上日本で生活し、研究した経験からして私にとつての異文化言い分は多少他の海外客員研究員とは毛色がことなると言つていいだろう。なので日本を他の国の文化や人々との比較において述べてみたい。

六年間日本を留守にしてやっと日本に戻ったのだなあ、と私を実感させたのは先ず、バスや電車に乗ったときであった。日本は世界でも交通量が多い国のひとつであるがバスや電車は分単位で時間に厳格である。運転手はプロ意識が高く、信頼が置ける。だから他の国でバスや電車が時間通り来ず待たされでもしたら日本人は間違いなく

ショックを受けるだろう。それはそれとして、東京でラッシュ時間地下鉄に乗車することは外国人にとりえらく特別かつユニークな体験である。何人かの友人が日本のラッシュ時間に常客が詰め込まれる様子を写した写真や動画を示して、「これは現実なのか」と私にたずねた。私は日本以外の多くの国々を旅したり住んだりした経験があるが、常々、日本のイノベーションと技術水準とものづくり精神には驚かされる。分野

は多岐にわたるが特に家庭電気製品での進歩である。これは思うに日本人が供えている多くの性格や特性に由来していると思う。進取の気性、美を求める精神、共同体への奉仕の姿勢などである。私は日本がこれからも常にこれらの美徳を保持し、諸分野での最前線の位置に立ち続け、それにより世界の人々の生活の改善に寄与していただきたいと思っている。

日本に滞在していて私自身様々な技術進歩の一部始終を目の当たりにしそれを享受できることを幸運と感じまた誇らしく思う。

他に、日本についていいなと思うのは料理と文化である。日本文化や日本料理は世界に知られていることを認識した。生け花や茶の湯のような日本の芸術を海外の人は体験してみたいと欲している。香港やほかの東アジアの国々の人々には日本のアニメや漫画に夢中になっている人が多いし、日本料理も好まれている。自身のことを言わせていただくと一三年前に來日する前は、時間があればドラえもんやドラゴンボールに読みふけていたし、梅干しや納豆の二つは好物である。海外で

梅干しや納豆を買い求めるのは難しいしまた店にあるにしてもとても高い。しかしカナダと香港で過ごした六年の間、梅干しと納豆は欠かさなかった。にわかには信じかねるとびつくりされる方もいらつしやると思うが。私自身もなぜこの二つが好きになったのか理由がわからないのだ。

他に顕著になったと思えるのは一〇年前と比べると日本を訪れる外国人の国が多彩になったことだ。これは日本が外国人に対して比較的親しみやすくまた開放的になったと感じている。グローバルゼーションが進む中、日本にとつても諸外国にとつてもこれはよい動きだと思う。それはさておき、友達とか私は、地球の異なる地から異なる文化背景をもつて日本に來ているわけだがときたま出身国を聞かれる。その質問に答えた後の姿勢が人により異なることがある。常にとつていうわけではない。日本が異なる背景を持つ多くの人々がともに暮らし、働くすばらしい場所になる日は近いと思うし、また希望している。



NGUYEN Quoc Hung /  
アジア経済研究所  
開発研究センターマクロ経済分析グループ研究員

専門分野：オープン・マクロ経済学、マクロ経済学  
2009年プリティシュ・コロンビア大学経済学部博士課程  
終了、2010年経済学博士号取得  
同大学同学部研究助手、香港中央銀行金融研究所研究員  
を経て現在に至る。